

令和3年度事業報告

1. 事業

この法人は、進路指導の普及発展に寄与することを目的として、令和3年度は定款第4条に掲げる下記の事業を行った。

(1) 進路指導に関する調査研究

① 研究委託校の委嘱による調査研究

全国都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会等の推薦を受けて研究委託校を指定し、教育現場における進路指導諸問題の調査研究を推進した。

◆ 令和2・3年度研究委託校

- 茨城県久慈郡大子町立依上小学校
- 東京都台東区立御徒町台東中学校

2校とも「進路指導」95-2号に成果報告

(2) 進路指導に関する研修会・講演会、研究協議会等の開催

① 第69回 進路指導・キャリア教育研究協議全国大会の開催

- 誌上発表 「進路指導」94-4・95-1に掲載

② キャリア研修講座(全8回実施予定 ➡ 3回実施) [別紙 資料]

- 参加人数 30名

(3) 令和3年度 協会賞・会長感謝状表彰の授賞者の選定について

- 令和3年10月28日(木)協会事務室にて協会賞選考委員会を開催した
(該当者なし)。
- 令和3年10月28日(木)協会事務室にて会長感謝状贈呈者選考委員会を開催し、選考した。
- 受賞者は、機関誌「進路指導」(冬季号)に掲載。

公益財団法人 日本進路指導協会会長感謝状贈呈者

浦部 ひとみ	東京都立葛飾総合高等学校 主任教諭
河崎 智恵	奈良教育大学教職開発講座 教授
黒田 健夫	神奈川県立白山高等学校 統括教諭
小林 一彦	秋田県小・中学校進路指導研究会 名誉会長 元 秋田県大館市立第一中学校 校長
林 久徳	前 京都府京都市立静原小学校 校長 前 全国小学校キャリア教育研究協議会 会長
吉 仲 淳	弘前大学教育学部 教授

(4) 進路指導に関する関係諸団体との連絡提携

① 進路指導研究協議全国大会における連携

前記の全国大会の開催については、その計画・立案の段階から、全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会（以下全中進という）、全国高等学校進路指導協議会（以下全高進という）、ならびに日本キャリア教育学会（以下学会という）との密接な連携のもとに進めており、第 42 回全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議大会、第 44 回全国高等学校研究協議大会を兼ねる形で実施の予定だったが、誌上発表に変更。

また、この事業は文部科学省の後援の他、次の諸団体の後援をもいただく予定だった。

東京都教育委員会 全国都道府県教育長協議会 全国連合小学校長会
全日本中学校長会 全国高等学校長協会 日本私立中学高等学校連合会

② キャリア教育研修講座の実施についての連携

文部科学省の後援をいただいて実施、講師の派遣についても協力を得た。

全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会、全国高等学校進路指導協議会、日本キャリア教育学会から講師等の推薦をしていただいた。

③ 機関誌「進路指導」の編集についての連携

機関誌「進路指導」は何よりも現場教師の指導に役立つものでなければならない。

そのため小・中・高の進路学習の実践モデルを連載するなど、新企画の編集について全中進・全高進の積極的な協力を得て推進した。

③ 日常活動における関係団体との連携

研究活動はもとより、必要な情報の交換・共有等のため独立行政法人労働政策研究・研修機構、(公財)産業雇用安定センター、全国商業高等学校長協会、(公社)全国工業高等学校長協会、全国農業高等学校長協会、(公財)産業教育振興中央会等多くの関係団体との連携を図った。

(5) 進路指導に関する資料の収集及び展示

① 研究委託校の調査研究資料の収集・展示

研究委託校における研究成果は、2か年の委託期間が満了した折、報告書として提出される。その資料は一部を機関誌「進路指導」で紹介し、他は整理・保管し、関係者の求めに応じて閲覧に供してきた。

② 研究協議会等における資料の収集・展示

全国大会あるいは地区進路指導研究大会等に出席の折、進路指導諸資料の収集や協会出版物の展示・頒布に努めてきた。

○ 第62回北海道キャリア教育・進路指導研究大会参加[令和3年12月20日(月)]

(6) 進路指導に関する図書、資料、雑誌の出版及び推薦

① 機関誌「進路指導」の出版・推薦

協会発足の昭和2年に機関誌「職業指導」として発刊を始め、昭和39年から「進路指導」と名を変えて出版・刊行してきた。平成20年度から月刊を季刊に改めた。本年も継続し全国小・中・高・大等現場の教育者への購読を推奨してきた。

第94巻 第2号(夏号・令和3年6月1日)

第94巻 第3号(秋号・令和3年10月1日)

第94巻 第4号(冬号・令和3年12月1日)

第95巻 第1号(春号・令和4年3月1日)

発行部数はいずれも1,000部

② 副読本「中学生活と進路」の推薦

「中学生活と進路」の採択・普及に努めた。

③ その他の書籍の出版・推薦・普及

文部科学省（旧文部省）の刊行物では「中学校・高等学校進路指導の手引（各編）」及び「中学校（高等学校）進路指導資料（第2・3分冊）」について、広く全国の進路指導関係者に頒布・推薦してきた。

すでに刊行している小学校キャリア教育実践講座（三村隆男著）、キャリア教育Q&Aワーク（中学校編・鹿嶋研之助監修）、キャリア教育のエッセンス（吉田辰雄監修）の普及に努めた。

(7) 進路指導に関する研究委託校の決定と指導・援助および助成

① 研究委託校の選定

公益財団法人 日本進路指導協会研究委託校規程に基づき、都道府県・政令指定都市の教育委員会に推薦を依頼して委託校を決定した。令和2・3年度研究委託校は、下表のとおりである。

- ◎ 茨城県久慈郡大子町立依上小学校

「実感！ キャリア教育で小学校が変わる」

- ◎ 東京都台東区立御徒町台東中学校

「各教科・領域を生かしたキャリア教育の新しい展開」

② 研究委託校への指導援助と助成

研究委託校の要請に基づいて、研修会、発表会・研究会等に指導のための講師を派遣し、その経費を負担している。

令和2・3年度研究委託校に対し、研究実践成果報告書の提出を待って、その作成謝金として1校当たり30,000円を交付した。

(8) 児童・生徒の進学・就職に関する進路選択等の指導・援助

年間を通して進路選択に関する本人あるいは保護者の相談は多い。電話による相談が大半であるが、時には来所相談もある。本人の在籍校で相談を深めることを基本として、それぞれの悩みに対応した指導援助にあたってきた。

(9) 進路指導に関する政府の諮問に応ずること。政府その他機関に対する意見の提出

文部科学省の施策に全面的に協力する立場から、常に教育現場に生ずる進路指導上の問題を把握し、必要に応じて参考意見を述べ、調査研究に協力してきた。

(10) その他目的を達成するために必要な事業

小学校キャリア教育研究協議会、全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会、全国高等学校進路指導協議会、日本キャリア教育学会、その他諸関係団体と協力し、進路指導・キャリア教育の普及発展に努めた。